



交通指導員養成講座の受講生を募集します

交通安全指導のための知識や技能を習得し、「花巻市交通指導員」として活動しませんか。

■定員 10人程度(先着順)

■受講料 無料

■申込期間 2月3日(月)～20日(木)

■対象 おおむね65歳以下の人

■日時 2月25日(火)、午後1時30分～3時30分

【問い合わせ・申し込み】
新館市民生活総合相談センター
(☎24-2111内線253)

■会場 まなび学園

交通指導員 Q & A

- Q. 交通指導員になるためには特別な資格が必要？
A. 特別な資格は必要ありません。おおむね65歳以下の健康な人であればどなたでも交通指導員になれます
- Q. 具体的な活動内容は？
A. 活動内容は▷登校時の街頭指導▷交通安全教室への派遣▷交通指導車による広報活動一などです
- Q. 市内では何人が活動しているの？
A. 市内では、花巻地域39人、大迫地域6人、石鳥谷地域15人、東和地域9人、計69人(男性45人、女性24人)が活動しています



令和2年度 花苗配布事業のご紹介

市では「花いっぱい運動」を推進するため、公共の場所などで植栽活動を行っている団体や個人に花苗を配布しています。

花苗の配布を希望する場合は、花壇等実践者名簿への登録申請をお願いいたします。

■対象

▽公道などに面し、通り掛かる人が気軽に見られる花壇・プランター・街路樹升▽学校や保育施設、公民館などの公共施設にある花壇・プランター
※家庭の庭先や事業所の内部にある花壇などは対象外

■配布花苗

▽夏苗：夏から秋にかけて咲く花の苗12種類(5～7月に配布)▽秋苗：秋から春にかけて咲く花の苗6種類程度(10月に配布予定)

■申込期限 2月28日(金)

■申し込み方法

新館公園緑地課で配布する申請書に必要事項を記入の上、持参、郵送、ファクス、メールのいずれかで左記へ
※申請書は市ホームページにも掲載しています。持参による申し込みの場合に限り、各総合支所建設係でも受け付けます



①下通小松菜ロード(石鳥谷町八幡)
②マリーゴールド(ミニレモン)
③ケイトウ

【問い合わせ・申し込み】
新館公園緑地課(〒025-8601 花巻町9-30 ☎24-2111 内線258 FAX 23-1244 ☒kouen@city.hanamaki.iwate.jp)



献血にご協力を バレンタイン献血を実施します



県血液マスコミキャラクタールンちゃん

冬季は、風邪などで体調を崩す人や外出を控える人が多くなり、献血者が減少します。

冬季において安全な血液製剤を安定的に確保するため、2月1日～14日に「バレンタイン献血キャンペーン」を全国各地で実施し、献血の協力を呼び掛けます。

本市のバレンタイン献血キャンペーン

献血にご協力いただいた人には、バレンタイン記念品をプレゼントします。

- 期日 2月8日(土)
- 時間 ①午前10時～正午 ②午後1時30分～4時30分
- 会場 銀河モール花巻

【問い合わせ】
健康づくり課(☎23-3121)

献血はなぜ必要？

献血は、病気やけがで輸血を必要としている患者さんのために、健康な人が血液を提供するボランティアです。

血液は、生きた細胞のため長期の保存ができず、人工的につくることもできません。輸血用の血液製剤は、皆さんの善意の献血により支えられています。

安定的に血液を確保するために

本市では、1日当たりの目標献血者数を1日43人とし、献血への協力を市民の皆さんに呼び掛けています。

献血バスでお願いしている400ミリ献血の場合、受け付けから終了まで約40分。この短時間で助かる命があります。皆様のご協力をお願いします。

市内での献血日程は、毎月1日号の「広報はなまき」や、岩手県赤十字血液センターのホームページなどに掲載しています。



第44回花巻市民劇場公演 響けミラノの空に～伊藤敦子物語～



市民劇場は、郷土の文化や歴史をテーマに脚本・キャスト・スタッフなど、全て市民の手によって作り上げられる舞台です。

本年度の公演は、イタリアで活躍した小山田村(現 東和町小山田)出身のオペラ歌手・伊藤敦子の物語です。

- 日時 ①2月22日(土)、午後6時30分 ②2月23日(日・祝)、午後2時
- 会場 文化会館 大ホール
- 入場料 一般1,000円、高校生500円、中学生以下無料
- フレイガイド 文化会館、なはんプラザ、正時堂、イトウセイ、いせかん、砂田屋石鳥谷店、道の駅とうわ

【問い合わせ】文化会館(☎24-6511)

～あらすじ～

明治35年に小山田村に生まれた伊藤敦子は、オペラ歌手を志し、イタリアオペラの最高峰・ミラノのスカラ座を目指す。

世界で活躍する先輩・三浦環に続こうと努力を重ね、国内の風紀規制や親族からの激しい反対、関東大震災などに遭いながらもひたむきに「アリア」を歌い続けた。

結婚・出産を経験し、なおも夢を諦めきれず、ついにミラノへの渡航を果たすが、激しさを増し続ける戦争はいや応なく敦子を混乱の渦に巻き込んでいく。

故郷を離れ、愛する子どもたちとも別れ、それでもなおイタリアの地で「蝶々夫人」を歌い続けた1人の女性の物語。

「わたしはきっと、また歌いたかったんです。ただ、歌いたかったんです。イタリアで、いえ、スカラ座で、いえ、この、ミラノの空の下で！」